

第 23 回日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議

共同メッセージ(仮訳)

【2023 年 5 月 2 日 韓国・仁川】

1. 我々は、韓国のチュ・ギョンホ企画財政部長官の議長の下、第 23 回日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議を韓国・仁川で開催した。我々は、本会議が、2019 年 5 月以来約 4 年ぶりに対面で開催されたことを歓迎する。
2. 我々は、マクロ経済及び金融市場の現下の動向や、経済回復を支えるための政策努力について意見交換を行った。ASEAN+3 マクロ経済リサーチオフィス(AMRO)によると、長引く COVID-19 のパンデミックとその対応にもかかわらず、3 か国は 2022 年に 2.6%の成長を遂げた。継続的なサプライチェーンの混乱や危機的状況にまで悪化した現在のロシア・ウクライナ紛争によるインフレ圧力など、地域を取り巻く状況は芳しくないものの、パンデミックからの回復と各国の経済成長への政策支援により、3 か国は 2023 年には 4.5%の成長が見込まれている。
3. 日中韓は非常に緊密な経済関係にあるが、特に財やサービスの貿易において経済関係は近年鈍化している。我々は、未曾有のパンデミックからの迅速かつ持続可能な経済回復を確保するために、3 国間の協力が不可欠であることを認識する。この観点から、我々は、パンデミック後の成長を確保し、長引く悪影響を最小限に抑え、将来のショックに備えるために、経済・貿易関係を強化することの重要性を認識する。我々はまた、地域的な包括的経済連携(RCEP)協定の実施を全面的に支持する。我々は、パンデミックによってもたらされた最近の課題にもかかわらず継続され、我々の金融協力の大きな強化を支援してきた 23 年にもわたる本会議の意義を認識する。本年の会合が対面で開催されたことも踏まえ、我々は、大臣・総裁及び代理等のハイレベル、及び実務レベルの協議体を含む様々なチャネルを通じて、地域及び 3 か国間の金融協力のさらなる強化のため、協力していく。
4. 我々は、地域金融取極(RFA)を更に強化する観点から、新たなファシリティやより強固で信頼性の高い資金構造に関する議論を歓迎する。我々は、国際・地域金融セーフティネットの他の事例を調査し、チェンマイ・イニシアティブ(CMIM)の有効性を高める方法で、議論を進める必要があることに合意する。
5. 我々は、自発性及び需要の原則の下、自国通貨及び他国の現地通貨で CMIM の流動性支援の供与を可能とする、改訂版運用ガイドライン(OG)を歓迎する。また、CMIM のマージン構造を見直すための努力と、第 13 回テストランの成功を称賛する。我々は、第 14 回テストランが、CMIM の運用態勢を更に強化することを確信す

る。

6. 我々は、マクロ経済サーベイランスの実施、CMIM オペレーションの支援、技術支援(TA)の提供というコア機能の強化、地域のナレッジ・ハブ(RKH)としてのAMROの役割の確立、ASEAN+3 金融協力における事務局的支持といった新しいイニシアティブの採用により組織能力を強化するという、AMROの戦略的方向性2030(SD2030)を歓迎する。我々は、SD2030の実施とAMROの発展のために継続的な支援をすることに同意する。我々はまた、指導原則を含むAMRO幹部によるガバナンス強化に向けた議論を歓迎する。
7. 我々は、「アジア債券市場育成イニシアティブ(ABMI)中期ロードマップ 2019-2022」が成功裏に実施されたことを歓迎し、「新 ABMI 中期ロードマップ 2023-2026」を支持する。我々は、現地通貨建て債券の発行の拡大・革新に向けた信用保証・投資ファシリティ(CGIF)の努力を称賛する。
8. 我々は、ASEAN+3の将来のイニシアティブに関するワーキング・グループ(WG)を含む、ASEAN+3の金融協力を深化・拡大するための具体的進展を歓迎する。我々は、中国が主導するWG2によるASEAN+3におけるマクロ構造枠組みと手法の開発における進捗を歓迎する。我々は、日本が主導するWG3で議論された災害リスクファイナンス(DRF)の重要性を認め、ASEAN+3財務プロセスの定例議題としてのDRFイニシアティブを支持する。我々は、韓国が主導するWG4で議論された、フィンテックに係る域内の政策協調の向上に向けた取組みを称賛し、地域協力の分野の一つとして、ASEAN諸国へのオープンバンキング・システムの技術支援を提供することを期待する。我々は、各WGが更なる進展を遂げることを慫慂する。
9. また、我々は、日本が主導する金融デジタル化、及び中国が主導するトランジション・ファイナンスという2つの新しいイニシアティブの具体的な成果を称賛する。我々は、報告書「金融デジタル化の機会と課題:ASEAN+3地域金融協力の新たな視座」、「ASEAN+3トランジション・ファイナンスイニシアティブに関する調査報告書」、及びトランジション・ファイナンスに係るハイレベルな一般原則を歓迎する。最後に、域内クロスボーダー送金による現地通貨建て取引、企業債務、家計債務、及びサステナブル・ファイナンスといった、4つの新しいトピックに関する調査の開始を期待する。
10. 我々は、2022年ASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議の共同議長としての日本とインドネシアのリーダーシップに感謝する。我々は、来年開催される第27回

ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議において、共同議長を務める大韓民国とラオス人民共和国を支援することに合意する。

11. 日中韓は、相互及び ASEAN 諸国との協力・コミュニケーションを強化することにより、ASEAN+3 財務プロセスに積極的に参加し、主導していく。我々は、日中韓財務大臣・中央銀行総裁会議が、三か国の金融協力のための効果的な場として引き続き役割を果たすと確信し、2024 年にジョージア・トビリシにおいて再会することを決定した。